

抱っこひも安全協議会

2022年度抱っこひもの安全な使用に関する調査

結果報告書

2023年8月

抱っこひもの安全な使用に関する調査について

抱っこひも安全協議会では、年に1度、抱っこひもの使用状況やその使用経験を集め、事故またはヒヤリハット事例を収集し、会員への周知をはかっています。そのデータは会員各社へ提供し、製品改善、取扱説明書のコンテンツ改善、安全啓発活動へ活かして参ります。今回はその第6回目の調査を行いました。

2022年度は6回目ということで、以下のような質問の追加を行ないました。

抱っこひものオンライン説明に関する質問

抱っこひも使用後の状態、無料回収サービスについての質問

また、事故を未然に防ぐために、なぜヒヤリハット体験でとどまることができたのか、事故が起こった場合はどのような状況だったのかについて、詳しくデータを集めることにしました。

調査方法

インターネットで行うアンケート調査を実施しました。募集は各メーカーよりSNSやホームページ電子メールにて呼びかけました。約1ヶ月の募集期間を設け、回答者に対しては、抽選で50名に500円のクオカードをプレゼントとしました。

応募結果

2023年3月28日から2023年4月30日まで募集を行った結果、1,917件の回答を得ることができました。当選者50名より賞品申請フォームで受付締切の2023年7月20日（木）24：00までに回答頂いた48名の方へ、プレゼント発送はベビービョルン株式会社にて実施しました。

結果サマリー

回答数

	回答数	ヒヤリハット件数
第1回2017年2月プレスリリース	758件	*ヒヤリハットのみ
2018年度	2,497件	**ヒヤリハット+事故 777件(31%)
2019年度	3,696件	973件(26%)
2020年度	3,726件	736件(20%)
2021年度	4,119件	1,671件(41%)
2022年度（今回）	1,917件	513件(27%)

1. ヒヤリハット発生率について

ヒヤリハット発生割合のみで過去の結果を比較しますと昨年のヒヤリハットの割合がとて高く出ておりました。昨年は回答数も突出して多いのですが、ゼクシイベビー（リクルート）をはじめとした外部媒体の協力で多くの回答者を得ました。比較して本年は、各会員企業の登録ユーザー等へアンケート募集の告知を行って得た回答が主であり、使用中または安全な使用への意識も高い方による回答であったことから、昨年のみヒヤリハットの発生割合が高くなっていると推察しています。逆に、41%が全ユーザーの実体験に近い数値である可能性が高く、引き続き緊張感をもって安全啓発に努める必要があると考えられる。

2. オンライン説明について

オンライン（ライブ/動画）での抱っこひもの説明に参加、視聴した人は49%で全体の約半数でした。これは各メーカーがSNSやホームページ等を通して商品説明や使い方説明をLIVEで行ったり、動画コンテンツを掲載したりしている背景があります。コロナ化で対面での説明を避けた側面もあると思われます。

3. ヒヤリハットについて

ヒヤリハットは事故を回避できた事象として考えております。その延長で事故になった場合に発生したであろう事故は「落下による骨折・打撲・外傷」でした。これは実際に発生している事故と同じで、最も発生率の高い事故であり、リスクになります。過去の傾向とも変わりません。

また、事故にならずヒヤリハットですんだ理由で最も多い回答は、「周囲の手助けなど」でした。これは、使い慣れないときに補助して頂きながら使用するとき発生したヒヤリハット体験であろうことが想像されます。

お子さまの月齢が前回は6か月までが61%に対して、今回は42%。7か月以上の割合が58%で逆転しました。これは「ヒップシート」等に代表される、より長期間快適に使える抱っこひもが多く流通していることも影響していると考えられます。7か月以上になれば腰も据わりバランス感覚も出てきますが、同時に突発的な動きも大きく、また体重も重くなるためヒヤリとする場面につながり事が想像されます。

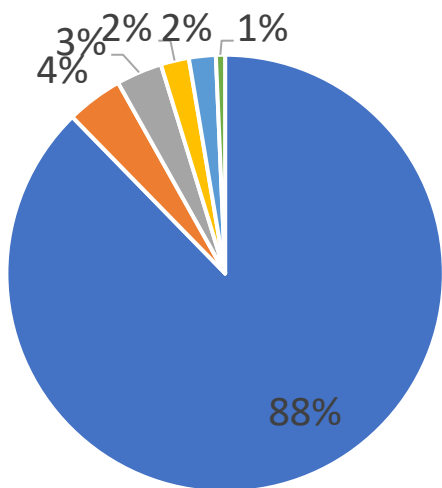
4. 事故について

事故は残念ながら継続して発生してしまっておりました。割合としては全体の1%、26件の報告がありました。そのうち14件（事故発生数の53%）は「落下による骨折・打撲・外傷」になります。こちらについて詳細は事故調査レポートを参照ください。

5. 使用後の抱っこひもについて

2次使用予定の割合は32%。「未定」と「お知り合いに譲る」という選択肢のポイントが減り、「フリマアプリ・リサイクルショップで売る」が増えました。

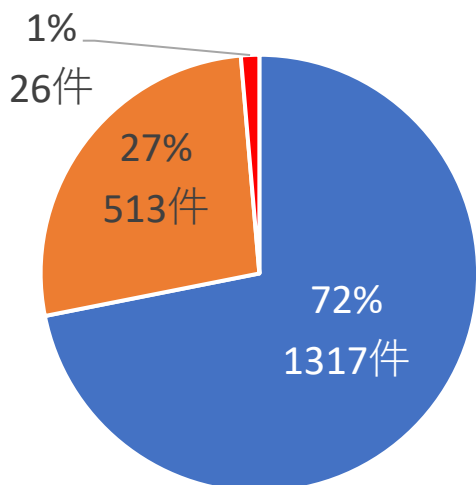
アンケート募集媒体



- メーカー（ブランド）の情報（SNS、メール、ホームページなど）
- ゼクシィベビーメールマガジン（リクルート）
- FQメールマガジン（アクセスインターナショナル）
- その他
- 抱っこひも安全協議会のウェブサイト
- ハッピーノートメールマガジン（ミキハウス子育て総研）

告知媒体：前回37%⇒8%
メーカーからの情報が60%⇒88%

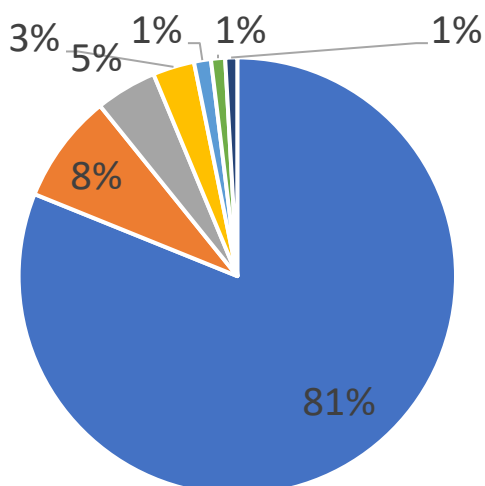
抱っこひもを安全に使用できていますか？使用できましたか？



- 安全に使用しており、ヒヤリハット、事故はありませんでした。
- ヒヤリハットがありました。
- 事故がありました。

ヒヤリハットの割合が前回41%に比べて27%と**14ポイント減少**し、安全に使用できたという回答が14ポイント増えました。事故1%は変わらずでした。

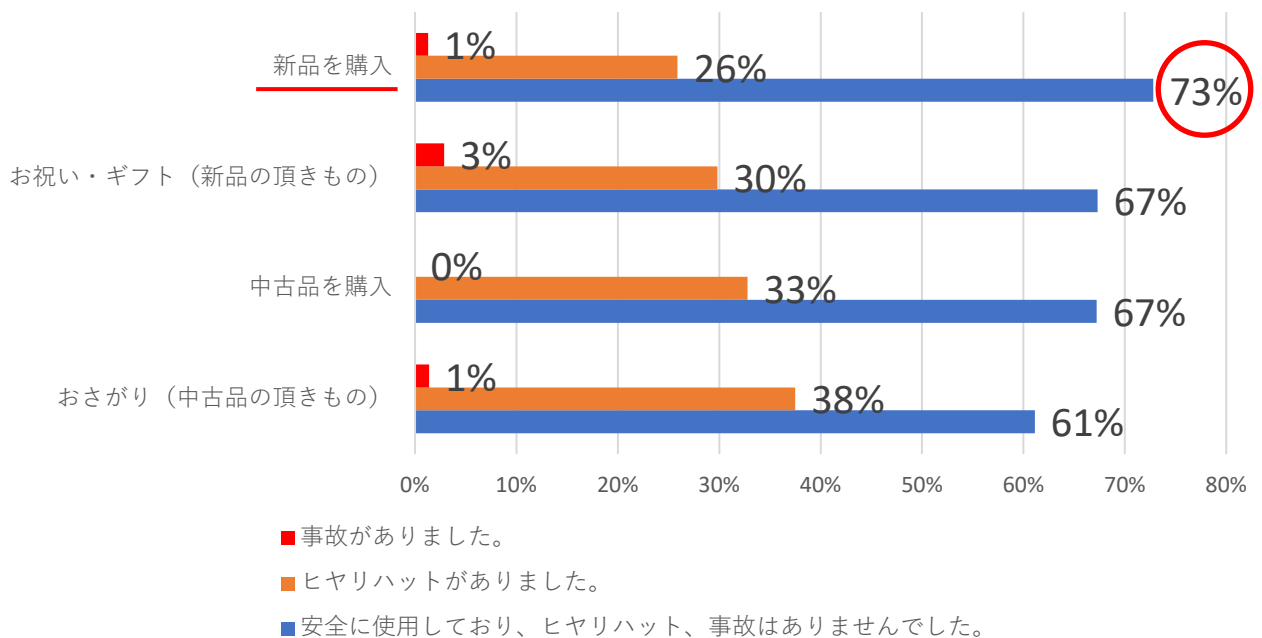
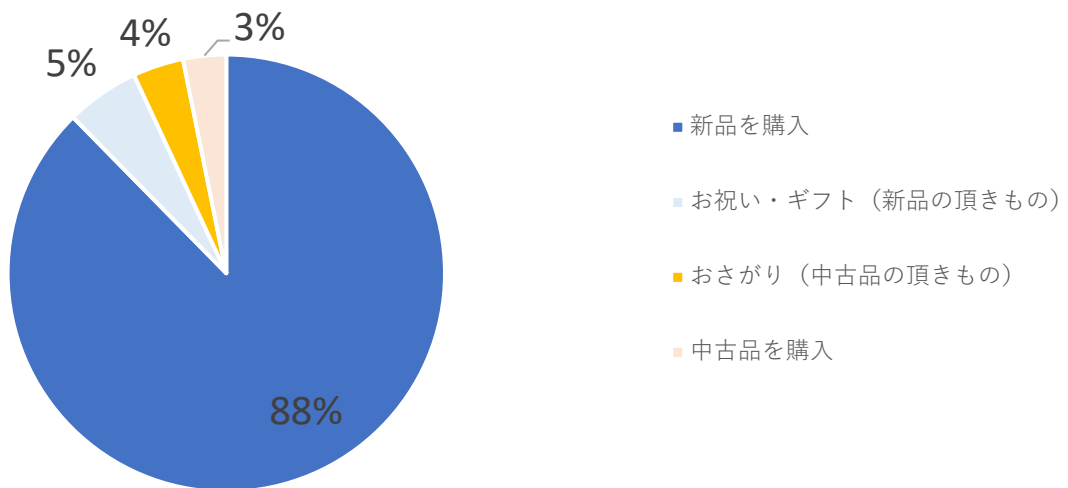
抱っこひもの種類



- 腰ベルト付き抱っこひも
- 腰ベルト無し抱っこひも
- ヒップシート
- ラップ
- スリング
- その他
- 紐で結ぶタイプの抱っこひも・おんぶひも

腰ベルト付き前回77%⇒81%
で4ポイント増。
スリング、ラップが合わせて
3ポイント減。

入手経路と安全性

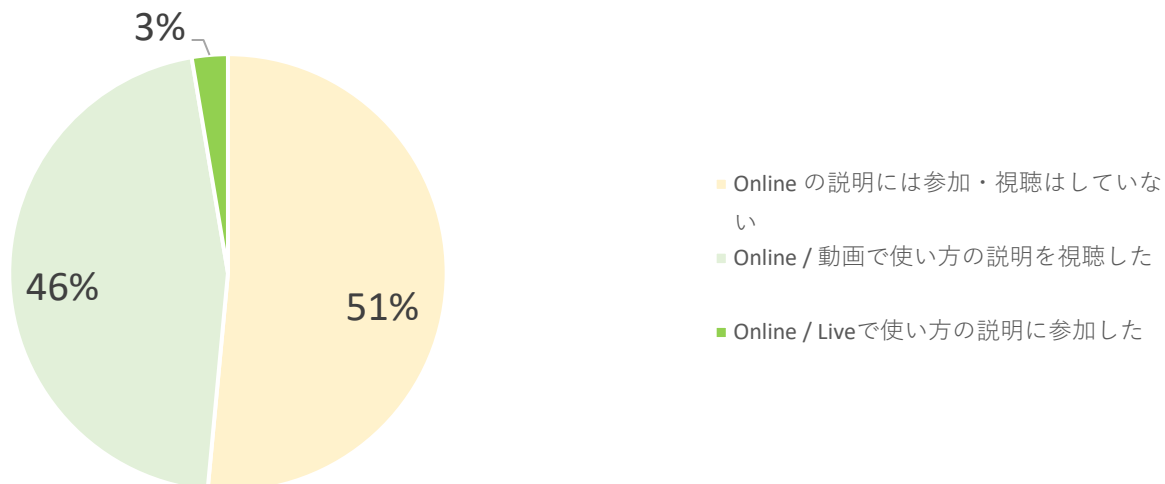


前回は中古品/おさがりの割合8%に対して、今回は7%でした。一定の割合で中古品が使用されています。

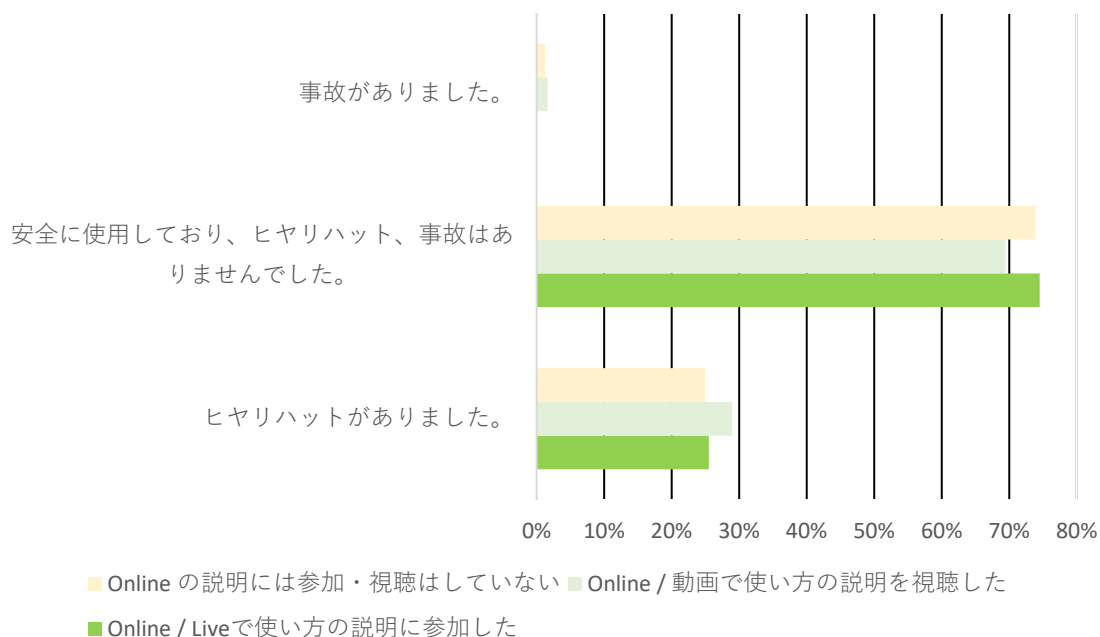
新品を購入した場合は安全性が高いと回答した参加者が多い一方、ヒヤリハットや事故が起きたと回答したユーザーも比較的多く、ヒヤリハットの割合は、新品の購入者よりも中古品・おさがりの使用者の方に多く見られ、中古品や譲り受けた抱っこひもの安全性にも注意が必要であることが、わかります。

また、新品であっても事故が起きる可能性がありますので、抱っこひもの適切な使用と安全に対する意識を高める必要があります。

オンライン説明について



オンライン説明×ヒヤリハット並びに事故について

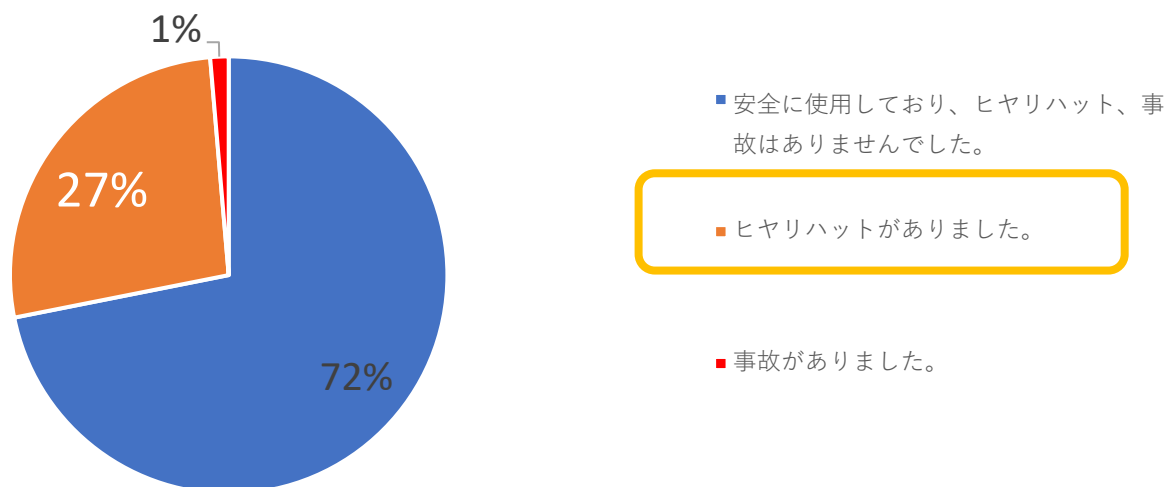


オンライン/ライブ説明に参加した、動画を視聴した人でも、ヒヤリハットや事故を経験されています。

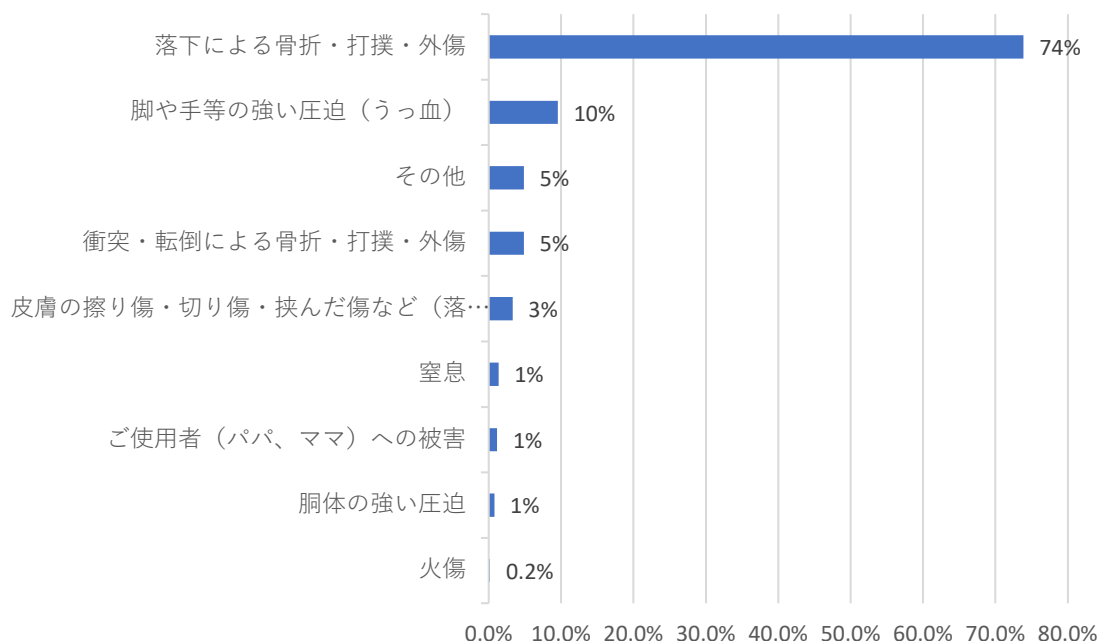
全体の回答ヒヤリハット：27%、事故：1%に対して、オンライン説明に参加した人と、参加・視聴はしていない人はほぼ同じ割合でした。
動画で使い方の説明を視聴した人のヒヤリハットが29%と最も高い結果でした。

ライブでのオンライン説明の方が集中して聴くということなのか、動画視聴だけではヒヤリハットや事故を減らすことはできないかもしれませんが、より効果的なコンテンツの作成によって、安全啓発ができるのではないのでしょうか。

ヒヤリハットがありました。【513件】について

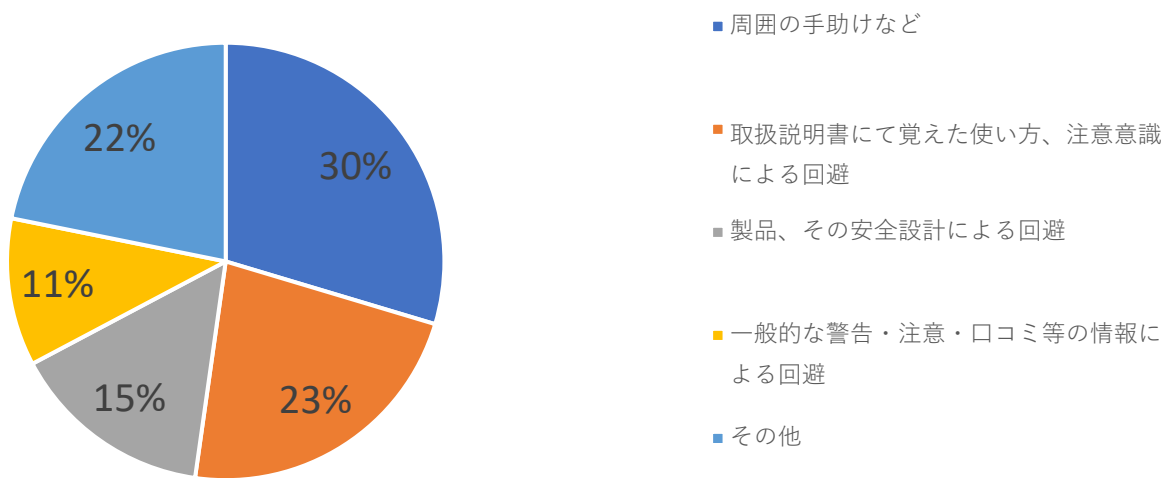


■どのような事故にならずにすみみましたか？



最も多いのは「落下による骨折・打撲・外傷」であり、全体の72%を占めています。他にも、脚や手の強い圧迫（うっ血）、皮膚の擦り傷・切り傷・挟んだ傷など（落下・転倒以外の外傷）も報告されています。

■事故にならずにヒヤリハットですんだ一番の理由は何ですか？【513件】



1.正しい使い方と安全性への注意：取扱説明書を理解し、適切な装着方法と使い方を学びましょう。安全性を優先し、赤ちゃんの身体にしっかりフィットさせることが重要です。

2.周囲の手助けと協力：他の**家族や周囲の人々に協力を仰ぎ、抱っこひもを使う際にサポートを受けることが大切**です。特に乳幼児の動きに注意を払いながら、安定して装着するよう努めましょう。

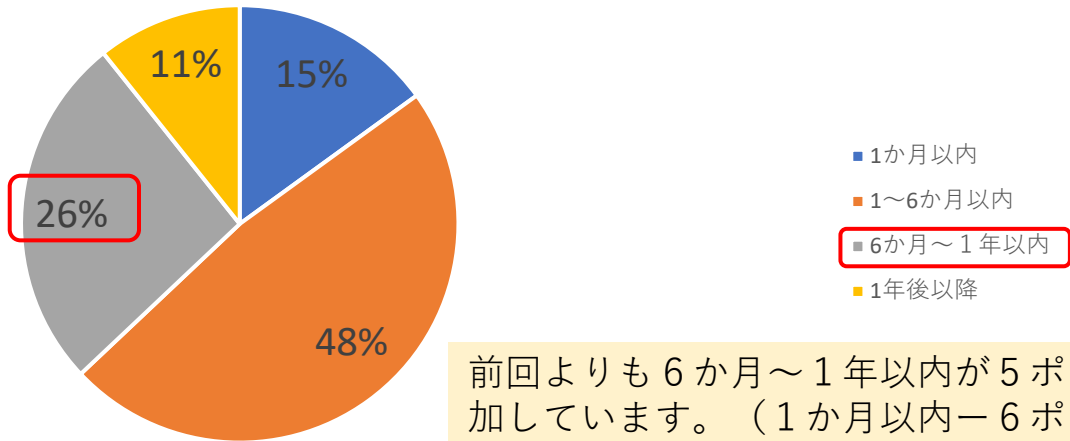
3.製品の安全性確認：抱っこひもの製品が適切な安全基準を満たしているか確認しましょう。信頼性のあるメーカーやブランドの製品を選ぶことが重要です。

4.ヒヤリハットや事故事例の学習：ヒヤリハットや事故に関する情報を学び、他の使用者の経験を参考にすることで、同じ過ちを避けることができます。

5.常に注意と慎重さを持つ：抱っこひもを使用する際は常に注意を怠らず、バランスを保ちながら移動することが重要です。赤ちゃんの動きに注意を払い、安全性を確保しましょう。

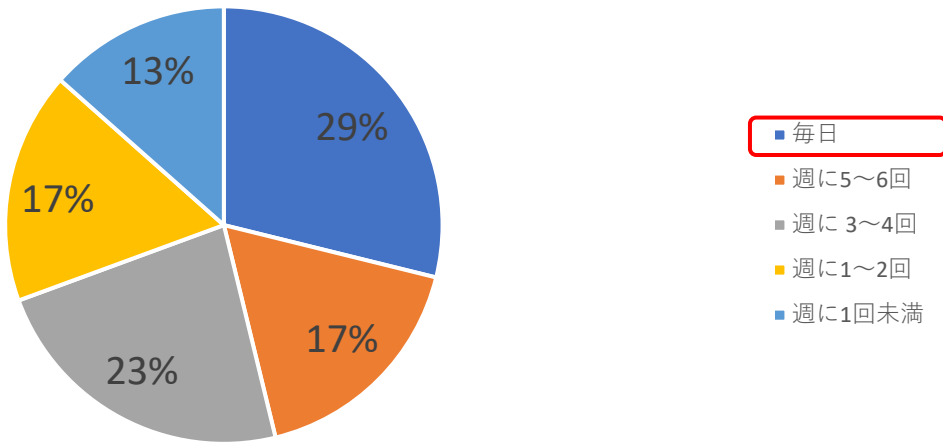
ヒヤリハットがありました。【513件】について

使い始めてからの期間

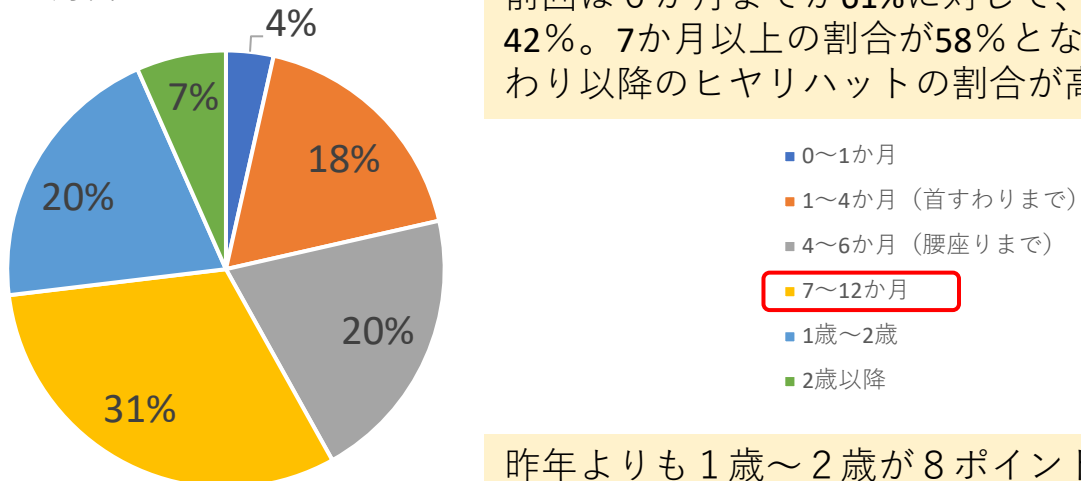


前回よりも6か月～1年以内が5ポイント増加しています。（1か月以内－6ポイント、6か月±0ポイント、1年以降+1ポイント）

製品の使用頻度



お子様の月齢

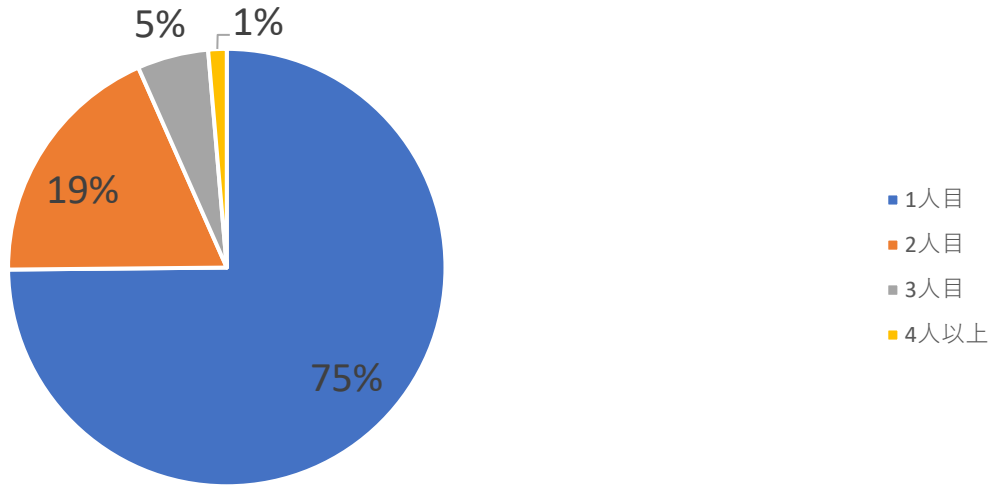


前は6か月までが61%に対して、今回は42%。7か月以上の割合が58%となり、腰すわり以降のヒヤリハットの割合が高くなった。

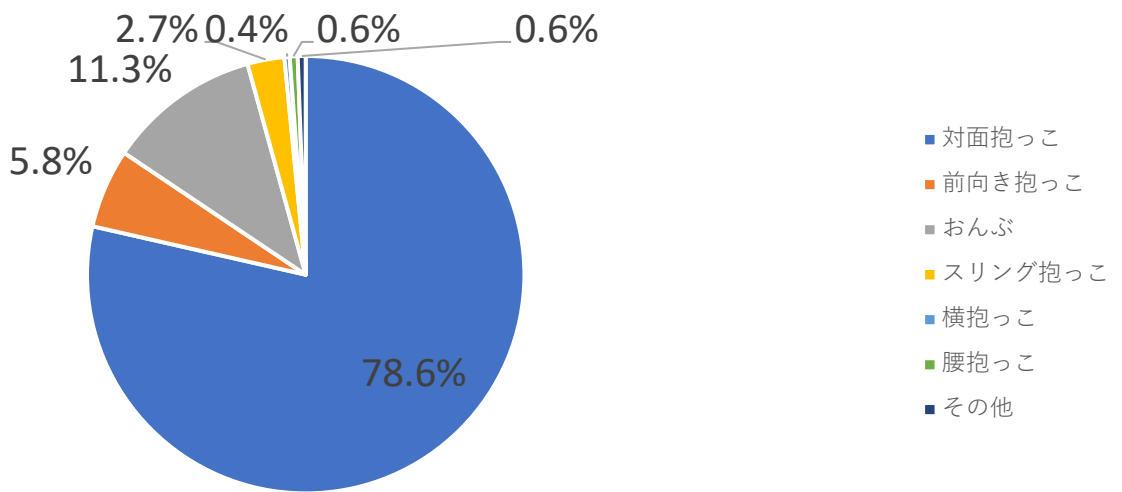
昨年よりも1歳～2歳が8ポイント増加しています。1か月－2ポイント、4か月－12ポイント、6か月+5ポイント、12か月+5ポイント、2歳以降+5ポイント

ヒヤリハットがありました。【513件】について

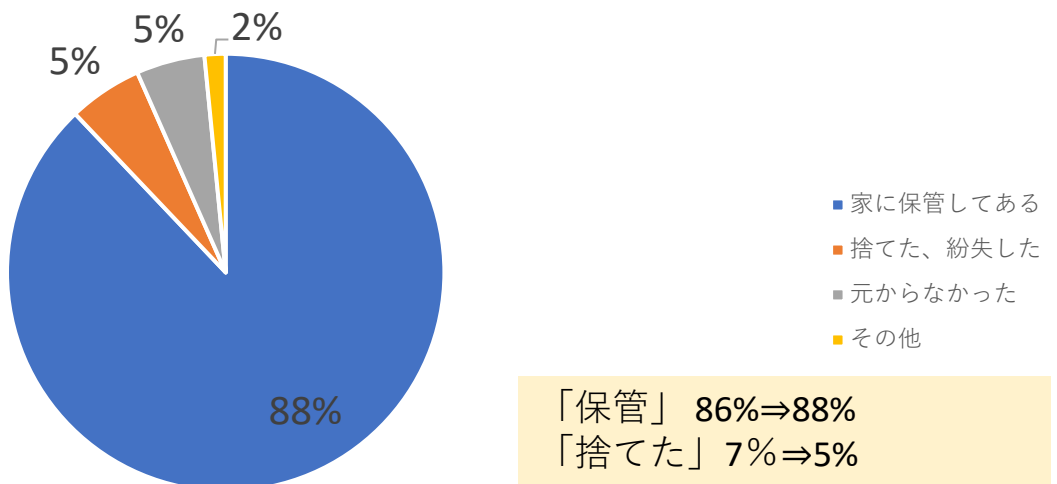
ヒヤリ体験をしたお子さま



抱き方



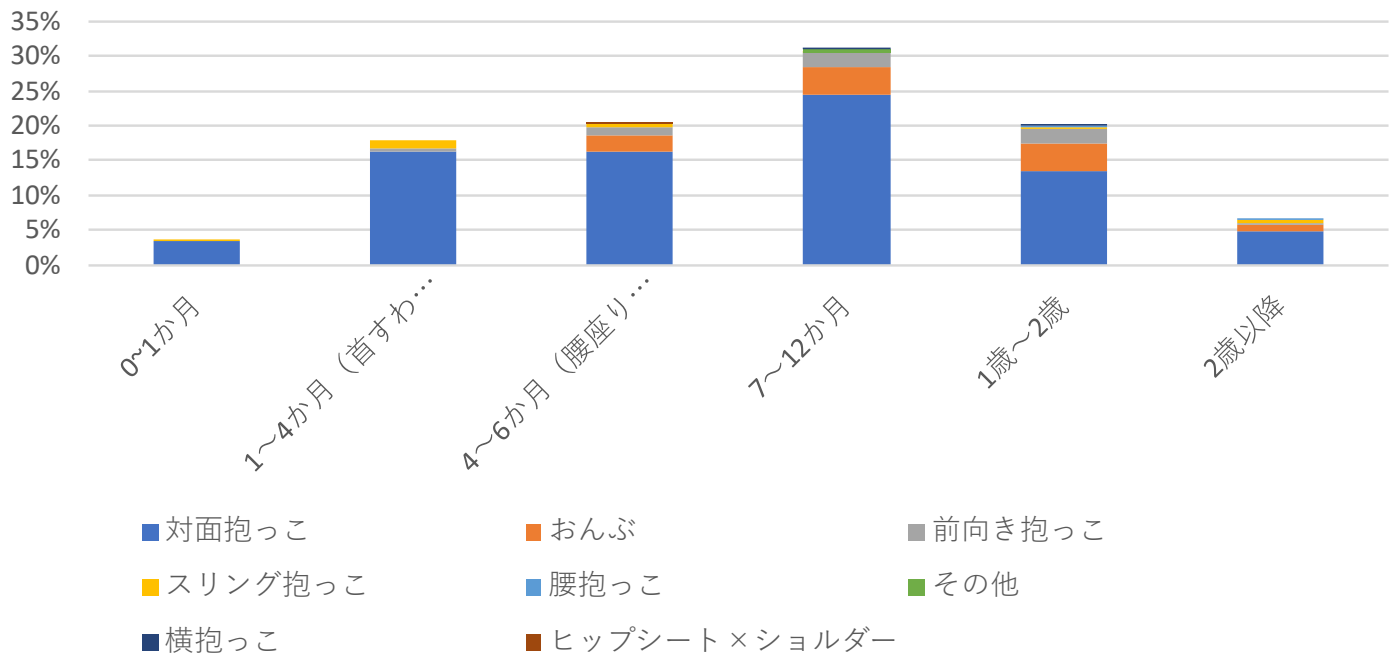
取扱説明書



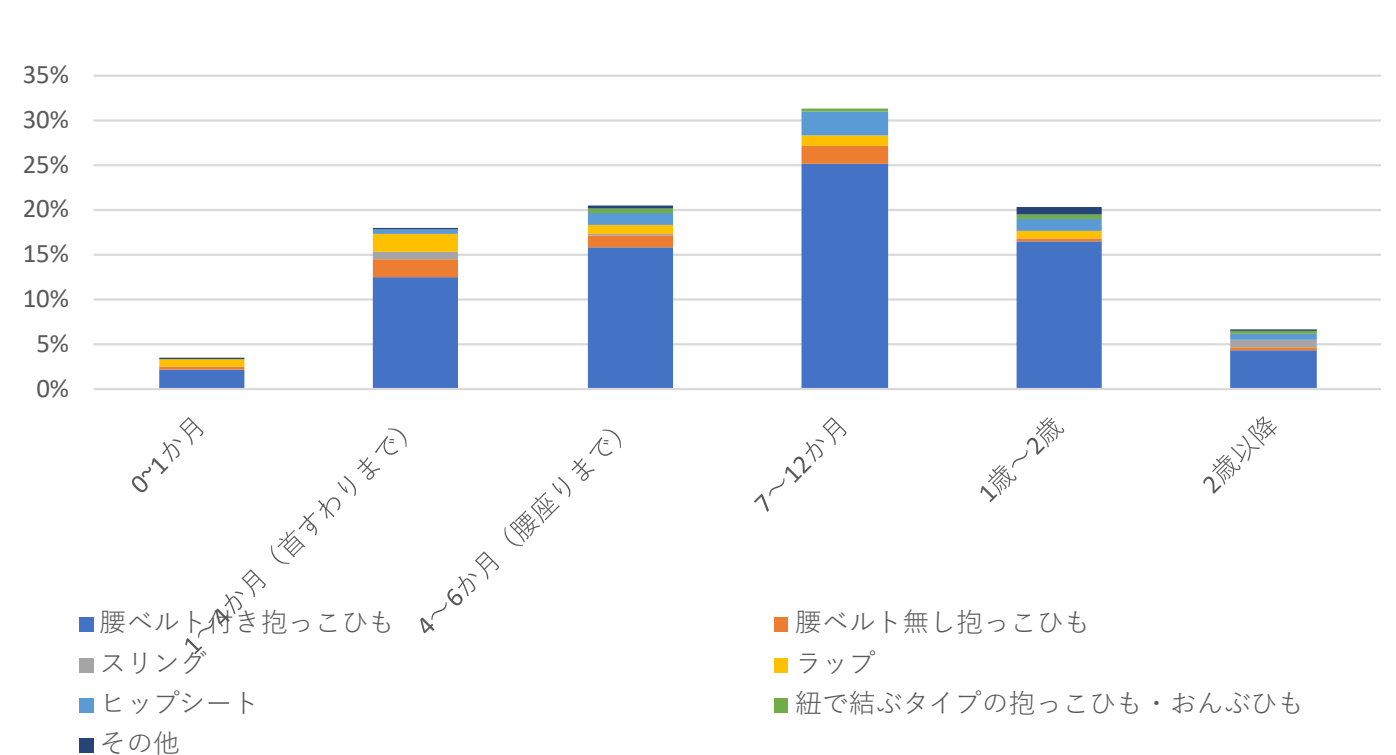
「保管」 86%⇒88%
「捨てた」 7%⇒5%

ヒヤリハットがありました。【513件】について

ヒヤリ体験をしたお子さまの月齢と抱っこひもの種類

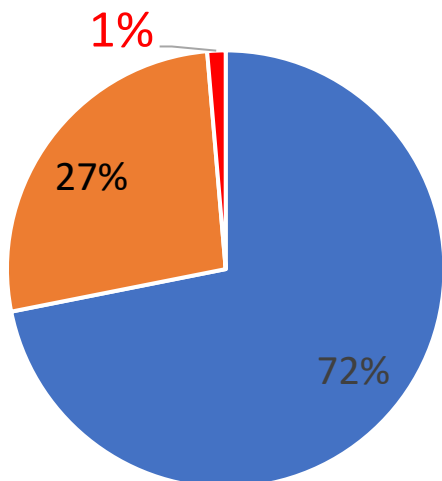


ヒヤリ体験をしたお子の様の月齢と抱っこの方法



【対面抱っこ】と【腰ベルト付きタイプ】での7か月以降の割合が多かった。

事故がありました。【26件】について：
詳細は事故レポートをご覧ください。

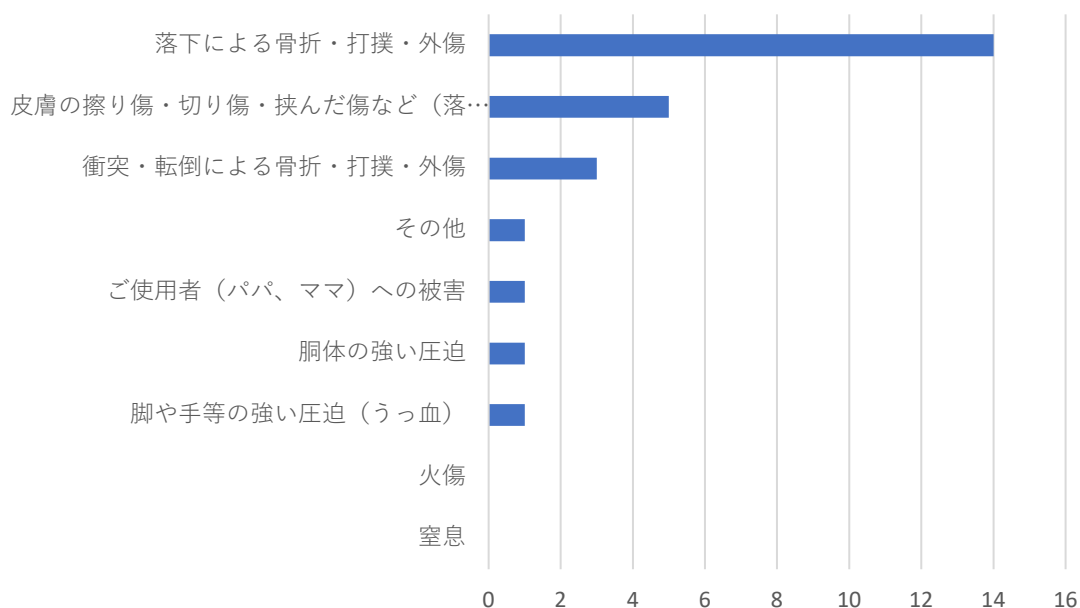


■安全に使用しており、ヒヤリハット、事故はありませんでした。

■ヒヤリハットがありました。

■事故がありました。

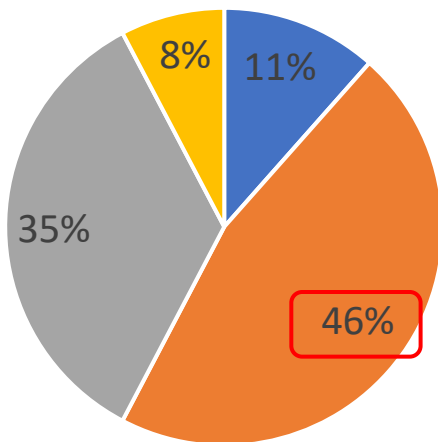
■どのような事故でしたか？



事故でも最も多いのは「落下による骨折・打撲・外傷」で14件ありました。次に、皮膚の擦り傷・切り傷・挟んだ傷など（落下・転倒以外の外傷）が5件、衝突・転倒による骨折・打撲・外傷が3件で、他1件ずつありました。

事故がありました。【26件】について

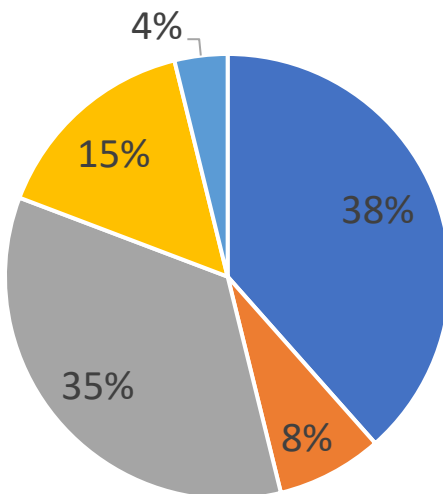
使い始めてからの期間



- 1か月以内
- 1~6か月以内
- 6か月~1年以内
- 1年後以降

前回と同様に1~6か月以内が最も多い割合でしたが、今回は6か月以降の割合が1か月以内よりも高くなりました。

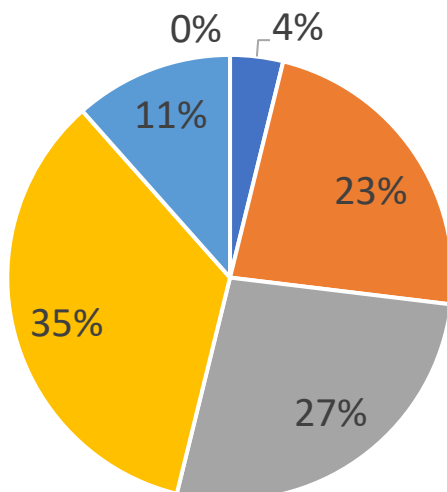
製品の使用頻度



- 毎日
- 週に5~6回
- 週に3~4回
- 週に1~2回
- 週に1回未満

ヒヤリハットと同様に毎日使用している割合が最も多く、お子様の月齢も、7~12か月が最も多かったです。

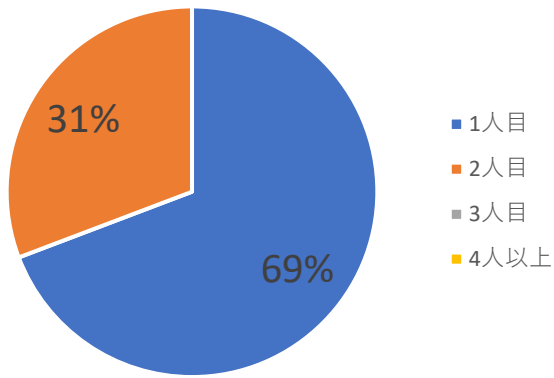
お子様の月齢



- 0~1か月
- 1~4か月 (首すわりまで)
- 4~6か月 (腰座りまで)
- 7~12か月
- 1歳~2歳
- 2歳以降

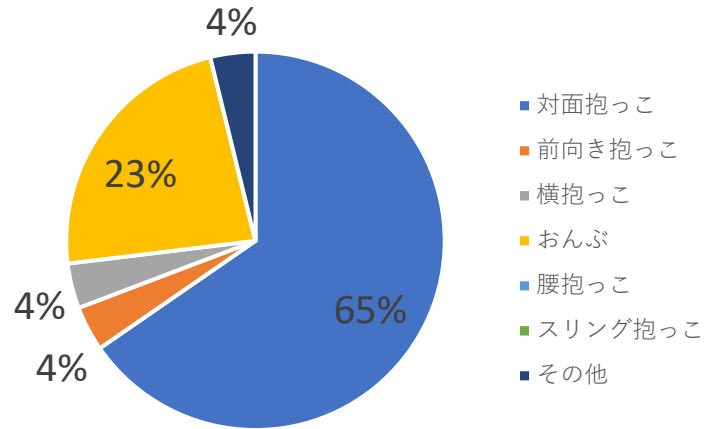
事故がありました。【26件】について

事故にあわれたお子さま

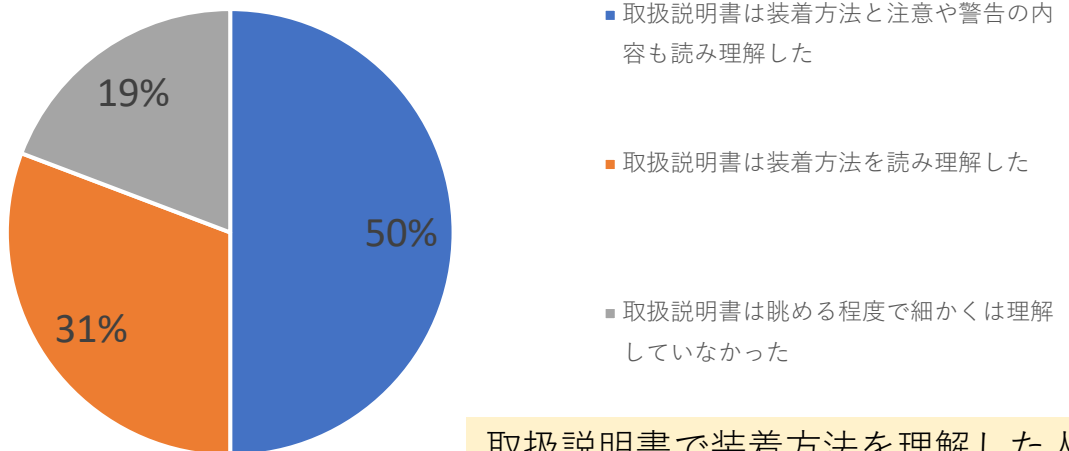


ヒヤリハットより2人目の割合が多い

抱き方

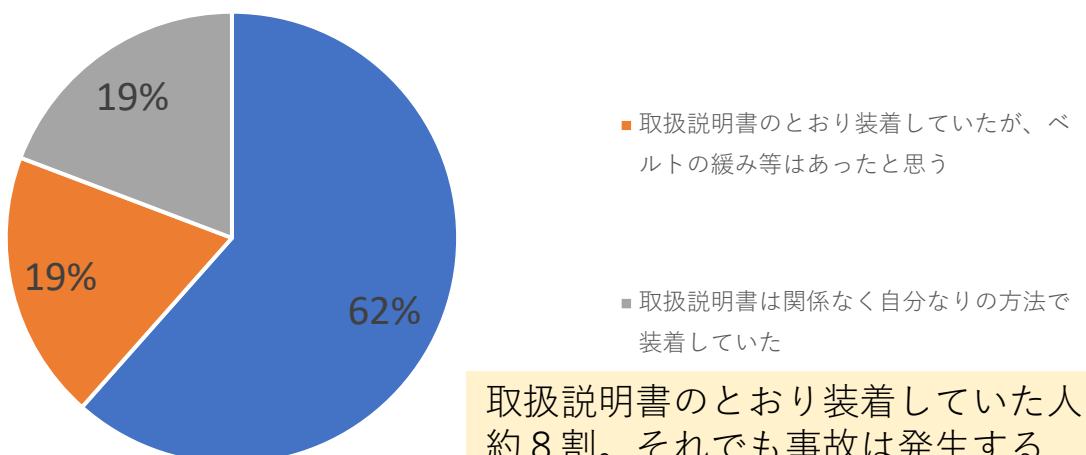


取扱説明書の確認について



取扱説明書で装着方法を理解した人が約8割。それでも事故は発生する

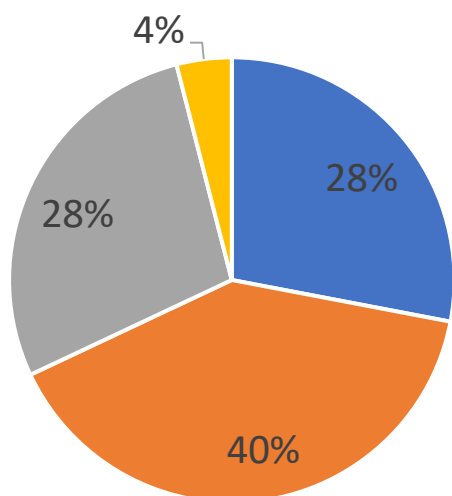
使用方法について



取扱説明書のとおり装着していた人も約8割。それでも事故は発生する

事故がありました。【26件】について

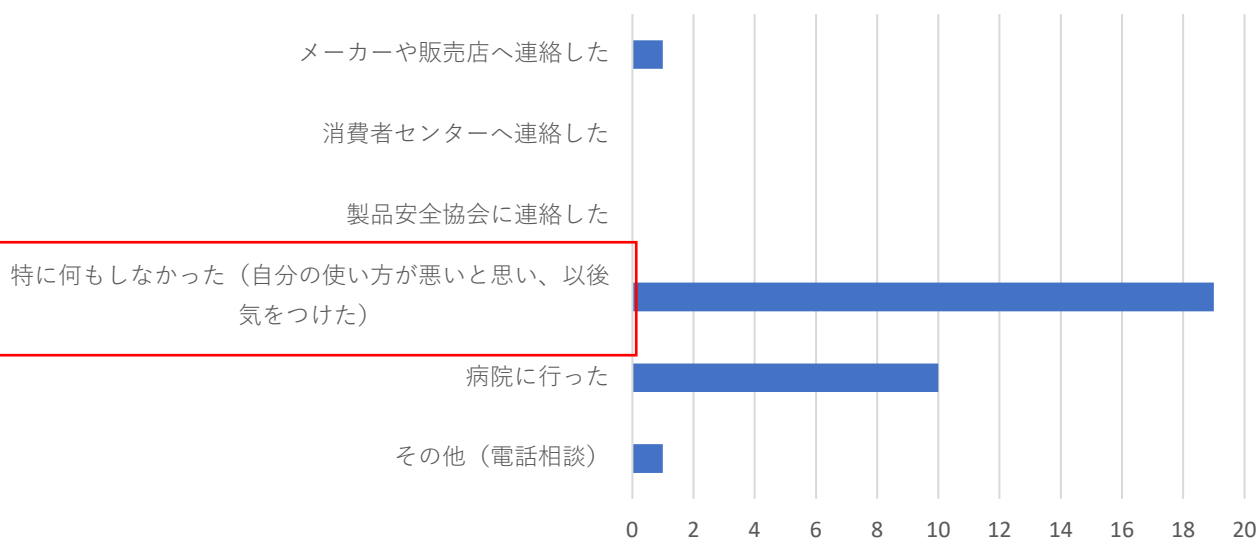
使用時の感覚について



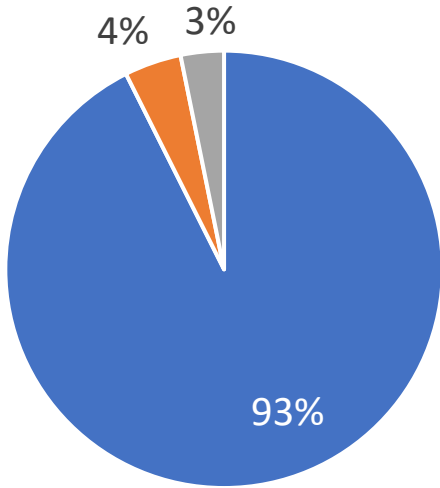
- 抱っこひもは日常的に使用しているがヒヤッとする危険も経験があり注意していた
- 抱っこひもは日常的に使用しており安全に使用している自信があった
- 抱っこひもは使用し始めたばかりで慣れていないと感じていた
- 抱っこひもは使用する機会が少なく慣れていないと感じていた

日常的に使用していて安全に使用している自信があったという人の割合がヒヤリハットでは31%：事故40%と高かった。

事後対応について（複数回答）



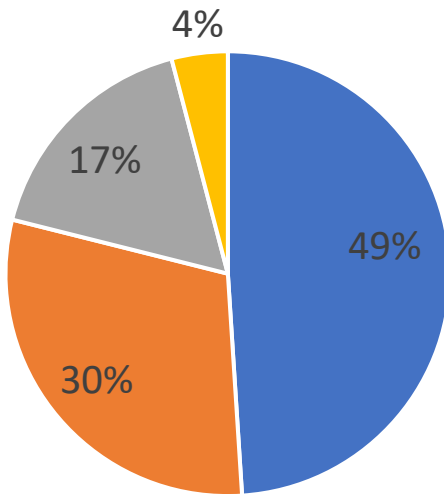
自転車の利用について



- 抱っこひもを使用して自転車に乗ることはない
- だっこをして乗ることがある
- おんぶをして乗ることがある

「乗ることがある」前回 9% ⇒ 7% で 2ポイント減。
抱っこ 4%、おんぶ 3% で、抱っこでの乗車の方が多いという傾向は変わらない。

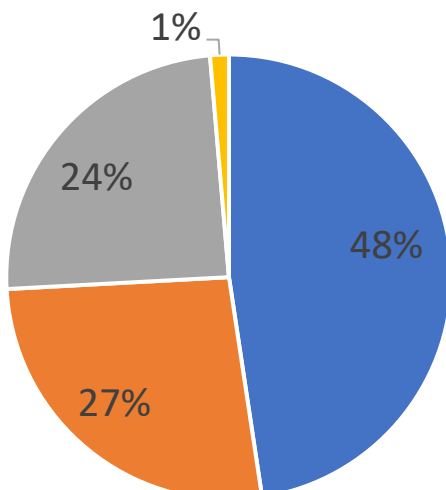
自転車に乗る目的



- 送迎
- 買い物
- 外出（お出かけ等の余暇活動）
- その他

送迎が前回 47% ⇒ 49% で最も多いことは変わりませんが、買い物は前回 39% ⇒ 30%、外出が 12% ⇒ 17% と増えています。ウィズコロナへの移行でしょうか。

自転車に乗る頻度



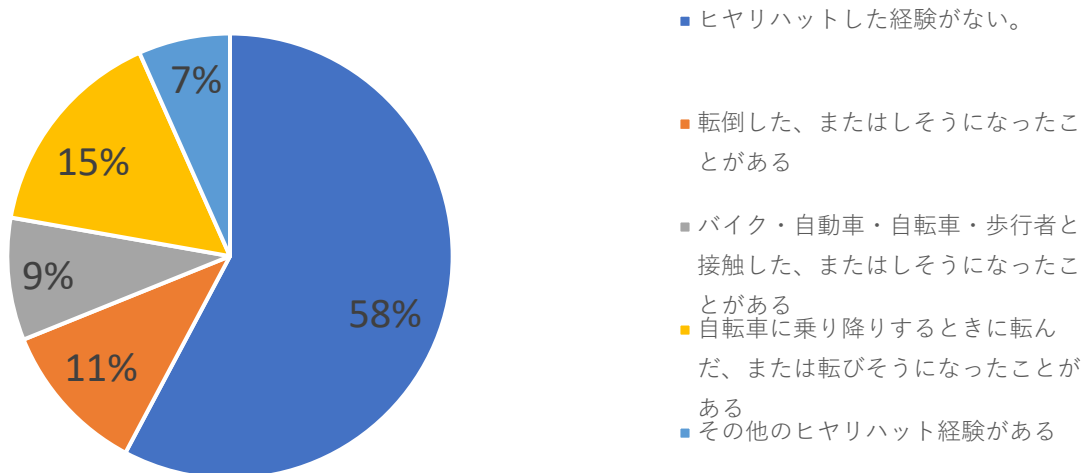
- 日常的（週4日以上）
- 時々（週2、3日）
- ほとんど乗らない（週1日以下）
- その他

利用頻度は前回の傾向とほぼ同じです。

自転車のヒヤリハットについて

ヒヤリハットは経験されましたか？

：ヒヤリハット、事故があったと回答した539名のうち、抱っこひもを使用して自転車に乗ることはないと回答した494名を除く回答者数【45名】



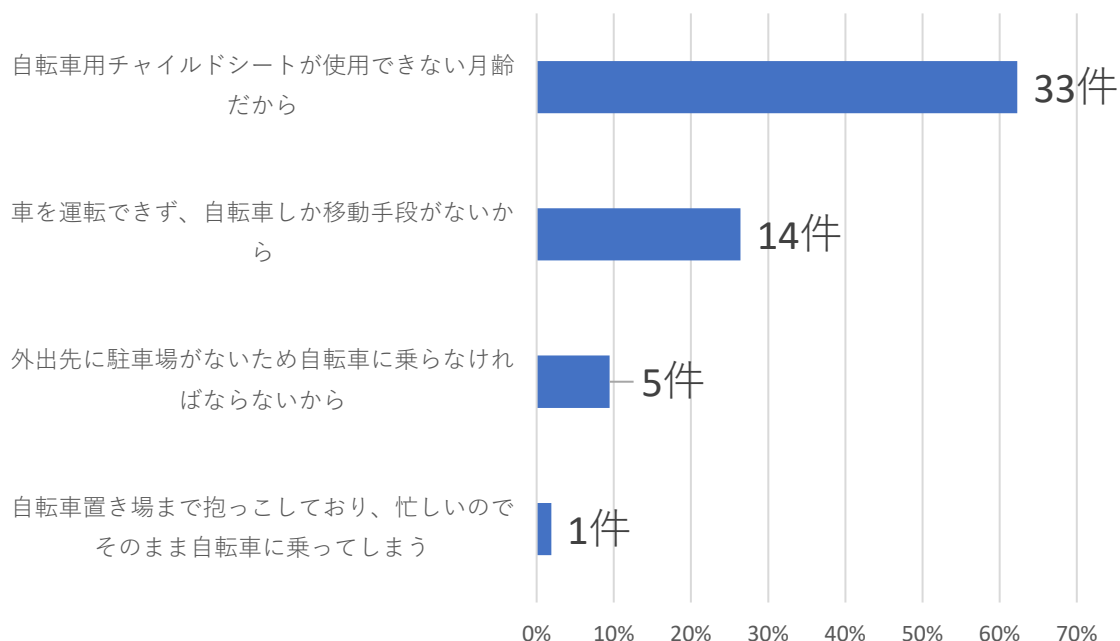
抱っこひも使用時の自転車でのヒヤリハットに関する回答では、バランスの崩れや他の自転車との衝突、横風や車の速度によるリスクが挙げられています。

一部の回答者は慎重に乗っているが、抱っこひも使用による視界やバランスへの影響に不安を感じる人います。

- マンホールの上で滑り、自転車ごと倒れそうになった
- 車の前方不注意で轢かれそうになった
- 強い横風で傾いたとき、力が入りにくくてヒヤッとした。
- 抱っこしていると足元が見えづらく、乗降時にふらつくので危ないと感じ注意していた
- マンホールの上で滑り、自転車ごと倒れそうになった

自転車のヒヤリハットについて

抱っこひもを使用して自転車に乗る理由を教えてください（複数回答）

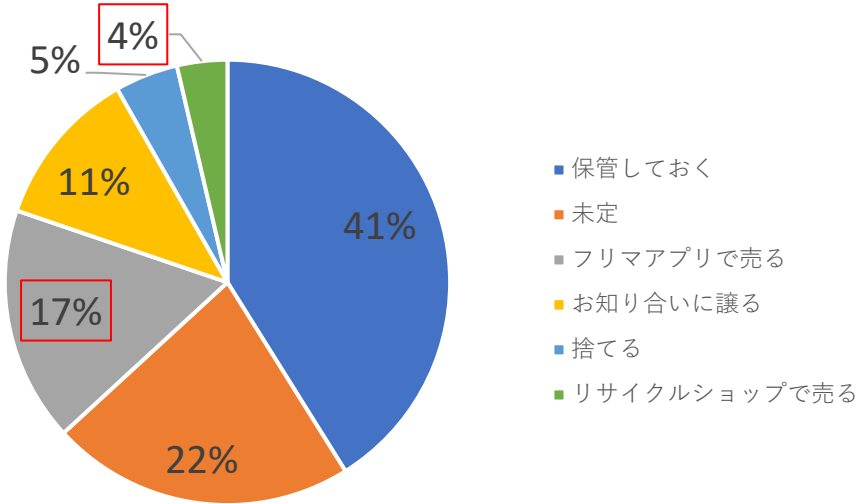


自転車に乗ることは抱っこひも利用ユーザーにとって便利な移動手段です。しかし、抱っこひも使用時のヒヤリハット体験に関する回答から分かるように、自転車利用時には一定のリスクが存在します。

特にバランスの崩れや他の自転車との衝突、横風や車の速度による危険性が挙げられています。また、視界やバランスへの不安を感じる人もいます。

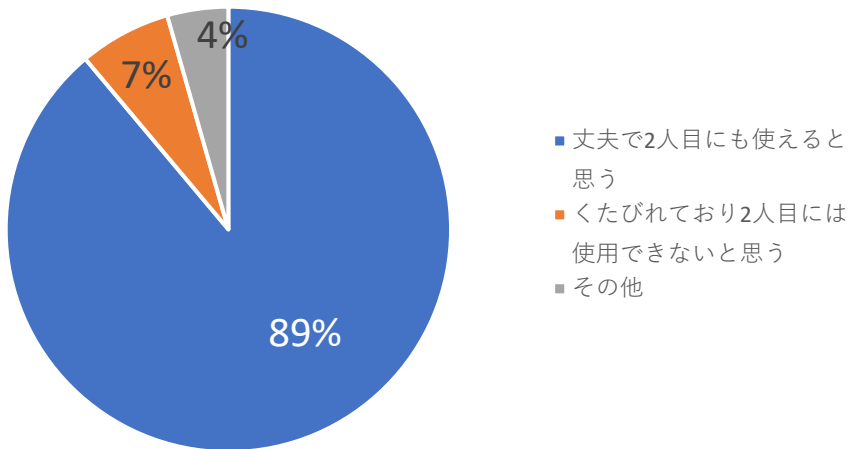
このことから、ヒヤリハットや事故を未然に防ぐ意識を高めることが大切です。

「使用後の抱っこひもについて」



2次使用予定：32%は前回と変わらないのですが、フリマアプリとリサイクルショップの選択肢を分けたことで、「保管する」が48%⇒41%で7ポイント減。フリマアプリが17%、リサイクルショップは4%で、合計すると前回の15%よりも6ポイント増えました。

現在お使いの抱っこひもについて、お子様への使用時期が終了するとき抱っこひもはどのような状態になっていると思いますか？現在の抱っこひもの状況から推測してお答えください。



サステナビリティの観点から、もし「抱っこひも回収」無料サービスがあれば、回収に参加しますか？

